

2023年度 活動報告書

2023年4月～2024年3月



公益財団法人

資生堂子ども財団

子どもたちが輝ける未来のために

公益財団法人 資生堂子ども財団 理事長 塩島義浩 事務局長 塩見朋子

私たちの歩みと活動

塩島 資生堂子ども財団は、50年以上にわたり児童福祉の充実のために活動を続けてきました。現在は設立50周年を機に改めて定めた「ビジョン」と「ミッション」のもと、活動のさらなる進化に取り組んでいます。私たちが支援する「社会的養護※のもとで暮らす子ども」は現在、日本に約4万2千名います。

※社会的養護：保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。
(出典：社会的養護 | こども家庭庁 <https://www.cfa.go.jp/policies/shakaiteki-yougo/>)

彼らが児童福祉施設や里親などのもとで暮らす理由は、「親の虐待」や「親の精神疾患」などさまざまです。こうしたことが影響し、心の傷や多くの困難を抱える子どもも決して少なくありません。

塩見 社会的養護を必要とする子どもたちの多くは、高校卒業と同時に施設や里親などのもとを離れ、経済的にも精神的にも自立した生活を営みますが、この「社会人としての自立」は彼らにとって大きなハードルの一つです。資生堂子ども財団は、彼らに将来に向かって自分らしく歩んでほしいという想いから2005年に「自立支援セミナー」を、2007年に「資生堂子ども財団奨学金」を開始し、これまでに3千名を超える子どもたちの自立をサポートしてきました。先日、奨学金を利用した卒業生が「支援者の方や財団からの励ましや応援が大きな力となった」と伝えてくれました。微力ながらも、私たちの活動が、子どもの笑顔に結びついていることを嬉しく思います。

塩島 私たちは「子どもへの支援のみならず、子どもを育てる人への支援が、その先の子どもの明るい未来につながる」という考え方を、設立以来大切にしてきました。社会的養護を必要とする子どもの成長は、児童福祉施設職員や里親などの情熱と日々の努力によって支えられています。施設職員や里親は、彼らの回復と成長をサポートするため、日々の生活を大切にしながら専門性をもとにしたケアを行うことが求められています。

塩見 はい。施設職員の専門性を向上する機会の提供として、設立当初から「資生堂児童福祉海外研修」を開始し、修了者は730名にのぼります。本研修は施設の種別を超えたネットワークが強みであり、修了者の多くは児童福祉業界をリードする存在として活躍されています。先日研修に参加した方は、「海外の児童福祉はもちろん、日本や自分の施設、そして自分の現状を客観的に見つめ直すことのできる絶好の機会だ」と語ってくれました。研修で得た学びは、修了者によって、子どもの健やかな成長に役立てられています。

より多くの子どものために

塩見 毎年20万件以上という、児童相談所に寄せられる児童虐待相談件数からもわかるように、社会的養護のもとで暮らしてはいないけれど、厳しい状況に置かれている子どもは多く存在します。困っている親子が孤立しないよう、地域社会のなかでつながりを持ち、互いに支え合うことは大切です。その機運を醸成することも私たちの役割の一つだと感じます。一つの財団法人の資源には限りがありますので、より多くの子どもをサポートするためには、これまでの知見を活かしながら活動を進化させなければなりません。

塩島 そうですね。実際に今も私たちはさまざまな法人・個人のみなさまによって支えられています。「寄附で子どもを応援したい」や「自社の取り組みで何か役に立てないか」と声を上げてくださる方々の温かい想いが、私たちの力になっていますよね。活動へのご協力やご寄附以外にも、一人ひとりが子どもを取り巻く現状に興味を持つことも支援につながると感じています。「大人がつながれば、子どもの未来を支えられる」ことを信じて、志を共にする仲間とつながり、互いのアイデアやリソースを持ち寄ることで活動の輪を広げていければと思います。

VISION 目指す未来の姿

すべての子どもが笑顔にあふれ、
自分らしく輝く社会へ

MISSION 私たちの使命

志を共にする仲間とつながり、
子どもたちの生きる力を支援する



資生堂子ども財団は、3つの柱で独自の活動を推進しています。



子どもへの支援

社会的養護のもとで暮らす子どもたちが、自分らしく将来に向けて歩むことができるよう、自立支援や高等教育進学支援を通じて、彼らの未来を後押しします。

- 自立支援セミナー
- 資生堂子ども財団奨学金



子どもを育てる職員への支援

社会的養護のもとで暮らす子どもたちの育ちを支える施設職員や里親など、児童福祉に携わる方々に専門性を高めるための研修機会の提供や活動への助成を行います。

- 資生堂児童福祉海外研修
- 海外研修フォローアップセミナー
- 児童福祉情報誌「世界の児童と母性」
- 研修等への助成



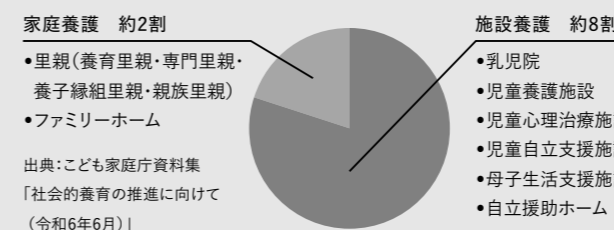
広く一般に向けた情報発信・共有

すべての子どもの健やかな成長のため、地域の子育て家庭をサポートする活動や児童虐待防止の啓発活動に助成を行います。

- 子育てセミナー・児童虐待防止啓発イベントへの助成

社会的養護の現状

社会的養護は「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育てる」を理念として行われています。「親の虐待」や「親の精神疾患」、「経済的理由」などにより、社会的養護を必要とする子どもは現在、日本に約4万2千名います。その約8割は施設養護、約2割は家庭養護のもとで暮らしています。



CONTENTS

- P1-2 はじめに
- P3-4 子どもへの支援
- P5-6 子どもを育てる職員への支援
- P7-8 広く一般に向けた情報発信・共有
- P9-10 決算報告・法人概要 など



子どもへの支援

社会に巣立つための知識を学ぶ

自立支援セミナー

社会的養護のもとで暮らす子どもの多くは、高校卒業とともに施設や里親のもとを離れ、経済的にも精神的にも自立して一人で生活することになります。彼らは就職や進学など新しい環境の中で、自ら生計を立てていかなければなりません。

自立支援セミナーはさまざまな企業と連携し、彼らが施設や里親を巣立つ前に、以下の3つの活動を通じて、社会的知識を身につけたり、将来について考える機会を提供します。



参加者数
138名



① 自立に必要な知識を習得する機会を提供

スターターズセミナー

社会的養護のもとで暮らす高校3年生を対象に、社会人に必要な知識やスキルなどをプロフェッショナルから学ぶ機会を提供するセミナーです。

2023年度は、4年ぶりにすべてのプログラムを対面で実施。7月と10月の2回に分け、資生堂ジャパン株式会社による「身だしなみ講座」など7つの講座を提供しました。3ヵ所計138名が参加し、社会人としての第一歩を踏み出す準備を整えることができました。参加者に対して、株式会社AOKIよりスーツ一式がプレゼントされました。

2023年度 プログラム

- 1回目
 - ・グループワーク「自立に向けて 今できることを考えよう！」
 - ・金融教育「家計管理・金融トラブル」
 - ・ワークショップ「自分の"強み"を伝えてみよう！」
- 2回目
 - ・講義「住まい探しの基本」
 - ・性教育「私のココロ・私のカラダ」
 - ・「着こなし講座」
 - ・「身だしなみ講座」

参加者の声
人前で話すのは苦手でしたが、ワークショップを通して少し自信ができました。

参加者の声
自分の強みについて、自分が気づいていない視点や意見などが聞けてよかったです。

参加者数
47名



OHBYカード(労働政策研究・研修機構)とワークショップで使用した資料

② 早い段階で、将来のキャリアについて考える機会を提供

未来発見ワークショップ

社会的養護のもとで暮らす中学生から高校2年生がさまざまな職業について学び、将来の可能性を広げるためのワークショップです。自分自身の得意なことや興味のあることを知ることで、夢や目標を見つけるヒントを提供します。

2023年度は、2024年1月から2月にかけてオンラインで4回実施し、計47名が参加しました。株式会社リクルートより『WORK FIT:可能性発見セミナー』プログラムの提供を受けました。

③ 高校卒業と門出を祝う

社会への巣立ちフェスティバル

社会的養護のもとで暮らす高校3年生を対象に、株式会社資生堂 汐留オフィスで開催する、高校卒業と門出を祝うイベントです。

2023年度は、2024年3月3日に開催。145名の参加者に対し、さまざまな企業と協働してプログラムを提供しました。参加者は株式会社AOKIよりプレゼントされたスーツを身にまとい、プロのフォトグラファーが記念撮影を行いました。

2023年度 プログラム

- ・「着こなし講座」
- ・「身だしなみ講座」
- ・プロのフォトグラファーによる写真撮影
- ・「家計管理の必要性」
- ・食の講座「考えよう!食生活 やってみよう!簡単レンジ調理」

参加者の声
他の参加者やスタッフの方と楽しく交流や学びができ、新生活に対する不安が減りました!

参加者の声
自立に向けて学びを深めたり、他の施設の子と交流できる機会を設けて下さり、ありがとうございます!!

参加者数
145名



詳しくはWebへ▶

2023年度
在籍奨学生数
17名

これまで
支援してきた
奨学生数
88名

学びのチャンスを広げる

資生堂子ども財団奨学金

社会的養護のもとで暮らす子どもが、高校卒業後に大学や専門学校などの高等教育へ進学する割合は、全高卒者と比較して低いことが伺えます。それでも、近年は進学へチャレンジする子どもも少しずつ増えてきています。彼らに対し、奨学金給付に加え、物資支援や仲間同士の交流機会の創出などを通じて、学生生活をサポートしています。

高校等卒業後の進路

児童養護施設児	進学38.9%	就職51.6%	その他9.6%
里親委託児	進学58.0%	就職31.1%	その他11.0%
全高卒者	進学77.2%	就職15.1%	その他7.7%

出典:こども家庭庁資料集「社会的養育の推進に向けて(令和6年6月)」

2023年度は、7名の新入生を迎え入れ、以下の支援を実施しました。

① 年間50万円を返済不要で給付

② 生活物資支援を2回実施

日々奮闘する奨学生に、少しでも健やかで充実した学生生活を送ってほしいという想いから、財団からのメッセージとともに食品や化粧品、日用品を詰め込んだ「ぎんざ通信」を送りました。その一部には、さまざまな企業から寄贈いただいた自社製品も含まれています。



・内容の一例 「プチッとうどん」、「プチッと鍋」(提供:エバラ食品工業株式会社)、「専科 パーフェクトバブル フォーボディ」(提供:株式会社ファイントゥデイ)、「フリュイジュレ」(提供:株式会社資生堂パーラー) など

③ 「奨学生交流会」を4回開催

「クリスマス交流会」や「年間活動報告会」などオンライン交流会を計4回開催。奨学生は、近況報告やグループトークを通じたコミュニケーションで親交を深めました。



離れた場所からも気軽にオンライン交流

クリスマス会で奨学生の自宅に届けたディナー

・トークテーマの一例
「普段の食生活」「ぎんざ通信に入れてほしいもの」「夏休みの過ごし方」

2024年3月に、3名の奨学生が卒業!

卒業生3名の学生生活は、コロナ禍から始まり、対面で人とコミュニケーションを取ることが難しい状況でした。そのような中でも、彼らは学生生活を充実させることへのモチベーションを失うことなく、自身の夢を実現させるために努力し、無事に卒業することができました。卒業後は、「児童養護施設職員」や「自治体職員」などの職業に就きました。

卒業した奨学生 Nさんより
4年間、手厚い支援をしていただきありがとうございました。大がく生活が不自由なく過ごせたのは、たくさんの方々からのご支援あってのことでした。支えていただいた日々を学んだことや、みなさまからのメッセージなどを胸に、これから社会人としても頑張ります。

資生堂子ども財団奨学金は たくさんの方々にご支援いただきました

奨学金の一部は、株式会社資生堂の株主優待や資生堂カメラファンド(資生堂従業員および社友からの寄附金)、資生堂子ども財団のホームページを通じた「奨学生応援サポーター」からのご支援を受けています。2023年度は、総額3,542,025円のご寄附をいただきました。みなさまの温かいお気持ちに深く感謝いたします。

在籍奨学生 大学2年生 Tさんより

私は大学の勉強に加えて会計士の勉強をしており、去年1年では勉強そのものはもちろんですが、試験勉強のための生活づくりに特に力を入れました。大学の友人との一枚その甲斐もあり、今は目標に向かって自分なりに充実した生活を送っています。残りの学生生活では、一度は海外旅行が出来たらと思います。また会計系だけでなく、他の経済分野の学問や英語にも積極的に取り組みたいです。寄附者のみなさま、私たちのために奨学金などの寄附や援助をしていただき、ありがとうございます。私が目標達成のために頑張れるのは、みなさまのご支援のおかげです。本当にありがとうございます。



詳しくはWebへ▶



子どもを育む職員への支援

世界から学ぶ、児童福祉の未来

資生堂児童福祉海外研修

海外の児童福祉情報や知識が少なかった1970年代に、独自の取り組みとして開始し、児童福祉施設の中堅職員に対して、世界各国の児童福祉の状況を学ぶ機会を提供しています。

[研修の流れ]

研修の実施

「事前研修」と「渡航・リモート研修」、
「事後研修」の3段階で実施

報告書の制作

研修の学びを知識として蓄積
していくために、報告書を作成

報告会の実施

研修成果を広く共有するために、関係機関
への報告やフォローアップセミナーを実施

研修実施回数
48回

総参加者数
730名

研修実施国
20カ国

2023年度は、「第48回 海外研修」と「第47回 海外研修 こども家庭庁報告会」を実施しました。

① 第48回 海外研修

第48回 海外研修ではニュージーランドに渡航。2017年に設置された子ども省のもとで再編された児童家庭福祉システムとその実践における現状と課題、今後の方向性を学びました。2024年3月末に研修の成果をまとめた報告書を発行しました。



視察先「Wairau Intermediate School」にて



第48回
資生堂児童福祉
海外研修報告書

研修団員数: 10名(研修団長と特別講師含む)

研修期間: 渡航研修 11月3日～11日、リモート研修 11月20日

主な研修の内容: ● 家族と子どもの問題の早期・予防的支援の具体的展開

- マオリ族の養育文化を基盤に生まれた「ファミリー・グループ・カンファレンス」の現在
- 連携パートナー間の情報共有のあり方
- 当事者の声を政策に反映させる権利擁護の取り組み

視察先一覧

A ウェリントン	Oranga Tamariki-Ministry for Children (子ども省)
	Barnardos New Zealand (歴史のある子ども家庭サービスNGO) Mana Mokopuna - Children and Young People's Commission (子ども若者コミッション) Open Home Foundation (法的サービスの権限があるキリスト教系NGO)
B オークランド・ハミルトン	Emerge Aotearoa (多様性を重んじる多機能NGO)
	Child Matters (児童保護関連の研修・教育機関NGO)
	Kia Puāwai (西洋とマオリの知と文化の統合を図る子ども家庭支援サービスNGO)【渡航+リモート】
	Glenmore Lighthouse (Kia Puāwai 運営緊急入所施設)
	VOYCE - Whakarongo Mai (インケアの子どもの声を聴く・つなぐNGO)
C クライストチャーチ	Turuki Health Care Turuki Family Start (周産期からの母子保健による予防支援)
	Blue Light (少年犯罪防止NGO:警察との連携)
	Wairau Intermediate School (11~13歳の公立学校)
	Julie Carter氏/One Big Family CEO (里親/NGO創始者)
Oranga Tamariki-Ministry for Children (子ども省)【リモート】	

西村岳人さん
児童心理治療施設
こどもL.E.C.センター
統括主任(研修当時)より
文化と多様性を尊重しながら、
「今必要な支援」を、「今必要と
している人」へどのように届け
るか?という姿勢や取り組み
をさまざまな機関から学ぶこ
とができました。

訪問地

ニュージーランド

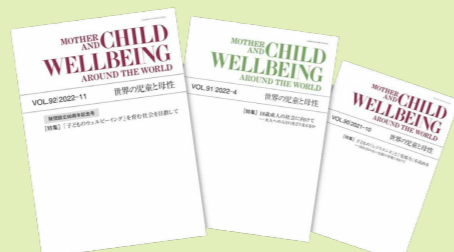


詳しくはWebへ▶

児童福祉情報誌「世界の児童と母性」

創刊以来、今日のあるいは先進的なテーマについて、国内外の専門家による研究・考察を幅広く収集し、発信してきた児童福祉情報誌「世界の児童と母性」は、2022年に発行した92号をもって休刊しました。

2023年度は、本誌に代わるデジタルを活用した新しい情報発信のあり方を企画。2024年度からは、日本の児童福祉における関心事をテーマに、これまでの「世界の児童と母性」や資生堂児童福祉海外研修を通じて蓄積された情報・知見を活かしながら、専門家による考察をホームページで発信する企画を開始します。



「世界の児童と母性」は創刊号から92号まで、
財団のホームページ上でご覧いただけます。

詳しくはWebへ▶

② 第47回 海外研修 こども家庭庁報告会

6月1日に、こども家庭庁に対して、オーストラリアに渡航した第47回 海外研修の報告会を実施。こども家庭庁からは、「有意義な研修であったことが察せられる報告」との評価と、「研修での学びをこれからしっかり発信するとともに、実践で活かしてほしい」という団員への期待が寄せられました。

報告内容

- オーストラリアの児童福祉の歴史や視察先の説明
- 研修からの学びと日本の現場への活用
- 日本全体で取り組むべきことについての提言



海外研修の成果を深める

海外研修フォローアップセミナー

本セミナーでは、児童福祉の最前線で活躍する資生堂児童福祉海外研修の修了者が、研修からの最新の知見を共有し、議論を交わして発展させること、そして修了者が所属施設や役職を超えて交流を深めることを目指しています。

2023年度は、「多様性を軸に子どもの権利を考える」をテーマに、5年ぶりに海外研修フォローアップセミナーを実施。8月31日に、株式会社資生堂 汐留オフィスとオンラインのハイブリッドで開催され、計54名が参加しました。

第1部ではオーストラリア ニューサウスウェールズ州における制度と支援の展開を紹介。第2部では日本における実践報告とディスカッションが行われました。

2023年度 プログラム

第1部 第47回 資生堂児童福祉海外研修報告 (オーストラリア)

第2部 シンポジウム・ディスカッション

テーマ① 「地域におけるニーズの気づきと早期支援」

テーマ② 「分離を予防する在宅での親子支援」

テーマ③ 「子どもが支援の主体となるために ~フランス研修からの学び~」



第1部報告者 岡村 悠里さん 児童養護施設 大和育成園 心理療法担当職員 より

多様性は「自分とはちがう“あたりまえ”があること」と同義であり、支援者として、自らのあたりまえを押し付けていないか、常に省み、子どもの声を聴くことを探求して困難の理解に努めていきたいです。また、大人も含めて権利について学んで意識を高め、子どもが日常的に意見を言い、それが尊重される経験を積み重ねられるよう日本らしいアドボカシー(権利擁護)のあり方を提案していきたいです。

研修等への助成

児童福祉施設職員や里親など、児童福祉に携わる方を対象に開催されている研修・表彰などに助成を行っています。2023年度は、5つの研修・表彰が対象となりました。

名称	主催	開催時期	参加対象
子どものしごとフェスティバルin 東京	特定非営利活動法人NPO STARS	5月	児童福祉施設への就職を希望する方
全国児童家庭支援センター協議会実務者研修会	全国児童家庭支援センター協議会	7月	児童家庭支援センターにおいてソーシャルワーク業務を担っている職員 など
家庭養育機能支援 子育てワークショップ研修会	日本キリスト教児童福祉連盟	8~9月	施設種別を超えて子どもの支援に携わる職員
全国子ども家庭養育支援 地域ネットワークセミナー	全国子ども家庭養育支援研究会	9月	里親、ファミリーホーム養育者、児童家庭支援センター・フォスターリング機関の相談員・心理職員 など
全国里親功労表彰	公益財団法人全国里親会	10月	全国の里親・里子、ファミリーホーム関係者 など

※開催時期順に掲載しています



広く一般に向けた情報発信・共有

地域の子育て支援活動をサポート

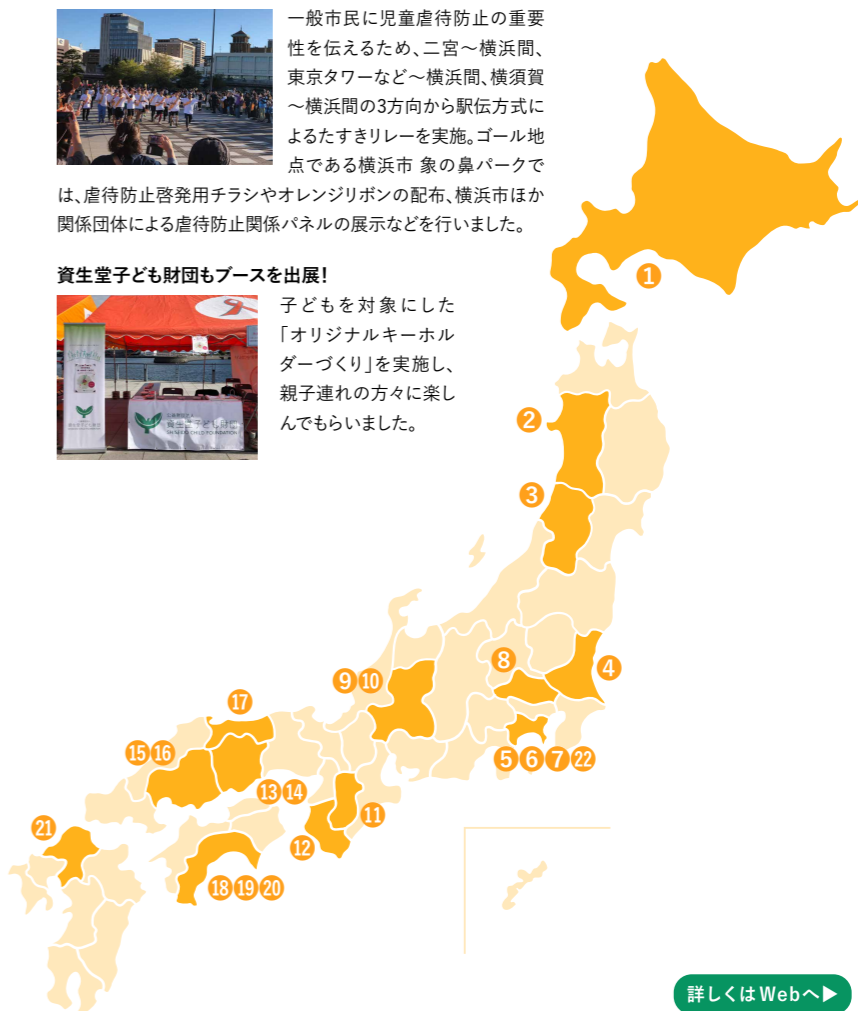
子育てセミナー・児童虐待防止啓発イベントへの助成

核家族化や地域交流の希薄化が進む中、地域の子育て家庭をサポートする施設・団体の活動に賛同。児童家庭支援センターやその他団体が主催する子育てセミナーや児童虐待防止啓発イベント(オレンジリボンキャンペーン)に助成しています。2023年度は、22の施設・団体が開催したセミナーやイベントに助成しました。



認定特定非営利活動法人
児童虐待防止全国ネットワーク
公式啓発ポスター2023

- 1 興正こども家庭支援センター(北海道)
 - 「のりしろ型支援」を考えるワークショップ
- 2 児童家庭支援センターこねくと(秋田県)
 - セミナー「『機中八策』～コミュニケーションを活性化させる八つの秘策～」
 - 親子フットサル大会
- 3 子ども家庭支援センターチェリー(山形県)
 - 親子ヨガ教室
- 4 児童家庭支援センターあいびー(茨城県)
 - 水戸市主催イベントでの相談会・親子体験会
- 5 あいせん児童家庭支援センター(神奈川県)
 - 健康アロマ講座
- 6 しゃんぐりらこども家庭支援センター(神奈川県)
 - ママのほっとタイム
 - はじめてママとあかちゃんの会
- 7 児童家庭支援センターまぎぬ(神奈川県)
 - 映画『ママをやめてもいいですか!?!』上映会
- 8 児童家庭支援センターシャローム(埼玉県)
 - 日高市民まつりでの啓発活動
 - 里親制度普及講座
- 9 ひだこども家庭支援センターぱすてる(岐阜県)
 - 講演会、ワークショップ
 - 「安心できる人と居場所を地域とともに育む」
- 10 子ども家庭支援センターぎふ「はこぶね」(岐阜県)
 - オレンジリボンたすきリレー
- 11 児童家庭支援センターあすか(奈良県)
 - 県内各所にグッズ配布・展示などによる啓発活動
- 12 和歌山児童家庭支援センターぎずな(和歌山県)
 - 講演会「ゲーム依存と不登校」
- 13 児童家庭支援センタークムレ(岡山県)
 - 秋の行楽企画「さつまいも堀りと広場で遊ぼう!」
 - 水島朝市でのオレンジリボンツリーづくり、グッズ配布などによる啓発活動
- 14 児童家庭支援センター「どんぐり」(岡山県)
 - パパママ向けリラクゼーション講座
 - 「アートで知ろうオレンジリボン」工作ワークショップ
- 15 児童家庭支援センターコスモス(広島県)
 - 親子サロン(ふれあい遊び、カレンダーづくりなど 全11回)
- 16 児童家庭支援センターこぶし(広島県)
 - 講演会「子どもとのよりよい関係づくりのヒント～子育ての“困った”を考える～」
- 17 児童家庭支援センター米子みその(鳥取県)
 - 関係機関向け講演会
 - 「子ども虐待とマルトリートメント～子どもの発達を阻害する要件、守る要件～」
 - 院内研修会
 - 「施設の多機能化の基盤となる包括的アセスメント」
 - オレンジリボンたすきリレー
- 18 児童家庭支援センター高知ふれんど(高知県)
 - 親子でふれあうベビーヨガセラピー&足形アートづくり(全10回)
- 19 児童家庭支援センター高知みその(高知県)
 - 親子での絵本づくりのワークショップ
- 20 児童家庭支援センターひだまり(高知県)
 - 講演会「虐待の淵を生き抜いて～人にも自分にもあたらぬ社会をめざして～」
 - 啓発ポスターデザインの公募
- 21 子ども家庭支援センターちあふる(福岡県)
 - 家族会議ワークショップ
- 22 子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会(神奈川県)
 - 第15回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー2023



一般市民に児童虐待防止の重要性を伝えるため、二宮～横浜間、東京タワーなど～横浜間、横須賀～横浜間の3方向から駅伝方式によるたすきリレーを実施。ゴール地点である横浜市 象の鼻パークでは、虐待防止啓発用チラシやオレンジリボンの配布、横浜市ほか関係団体による虐待防止関係パネルの展示などを行いました。

資生堂子ども財団もブースを出展! 子どもを対象にした「オリジナルキーホルダーづくり」を実施し、親子連れの方々に楽しんでもらいました。

詳しくはWebへ▶

2023年度の新しい取り組み

子どもたちの今を知る 子ども財団cafe

さまざまなゲストを招き、「日本に暮らす子どもたちを取り巻く現状」について、これまで知らなかったことや社会の中で自分ができることを発信するきっかけを届ける、資生堂社員を対象としたオンラインセッションです。2023年度より「子ども財団cafe」を開始し、2回のイベントに約110名が参加しました。

奨学生と資生堂社員をつなぐ架け橋 子ども財団つながるプロジェクト

資生堂社員が、資生堂子ども財団奨学生に対して、テーマに沿ったおススメを紹介することで、奨学生に幅広い視野や新しい視点を持ってもらうきっかけを提供します。多様なバックグラウンドを持つ社員と、日々頑張る奨学生の間に「つながり」が生まれることで、両者にポジティブな気持ちを届けたいという想いで企画しました。2023年度は、「学生のうちに読んでおきたい本」をテーマに、34名の社員からさまざまな本が紹介されました。

第1回テーマ: 「里親として生きるということ」
講師: 認定NPO法人 日本こども支援協会 代表理事 岩朝しのぶ氏
写真撮影者: 寺尾公郊氏

第2回テーマ: 「児童養護施設で暮らす子どもたちの日常」
講師: 児童養護施設 子供の家 統括職・心理職 橋原真也氏

第1回 参加者の感想
岩朝さんのお話は、私にとって貴重なものでした。社会のために自分は何ができるのかを改めて考えるきっかけとなりました。

第2回 参加者の感想
脚色されていない事実を垣間見ることができました。たくさんの大人が関わって子どもを育てていることがわかり、よりの大人が関わって子どもを支えていらっしゃる橋原さん、大変な現場で子どもたちを支えたいらっしゃる職員の方、関係者の方を心からリスペクトします。

詳しくはWebへ▶

奨学生に社員のおススメを届けよう!
第1回 子ども財団 つながる プロジェクト
11.20 (月) ~12.5 (火)
#学生のうちに読んでおきたい本

奨学生感想・Aさん
私自身、今まであまり本を読んだことがなかったのですが、紹介していただいた中には、読んでみたいと思える本がたくさんありました。この機会に読書を習慣化し、幅広い考え方や視点に触れたいと思います。

詳しくはWebへ▶

子どもたちの健やかな成長と未来を支えるために

株式会社資生堂 執行役 エグゼクティブオフィサー 常務
公益財団法人 資生堂子ども財団 評議員
直川 紀夫



資生堂は、資生堂子ども財団設立以来50年以上にわたり、事業活動への寄附、子どもたちへの「身だしなみ講座」の開催、社員がボランティアとして財団の活動に参加するなど、さまざまな形で、子どもたちの健やかな成長をサポートしてまいりました。財団の活動に参加することは社員にとっても、人として大切なことを気づかせてくれる機会になり、同時に、活動を通じて、充実した時間を過ごすことにもつながっています。「社会への巣立ちフェスティバル」では、社員一人ひとりが子どもたちとの交流を通して生き生きとしている姿が印象に残り、とても嬉しく、温かい気持ちになりました。「大人がつながれば、子どもの未来を支えられる」という財団のキーメッセージのように、これからも資生堂は資生堂子ども財団とつながり、次世代を担う子どもたちの未来を支えていきたいと考えています。

2023年度 決算報告

※百万円単位で四捨五入しています

貸借対照表の要旨

2024年 3月31日現在
単位(百万円)

科目	当年度
I 資産の部	
流動資産	59
固定資産	5,142
資産合計	5,202
II 負債の部	
流動負債	24
固定負債	—
負債合計	24
III 正味財産の部	
指定正味財産	4
一般正味財産	5,174
正味財産合計	5,177
負債および正味財産合計	5,202

正味財産増減計算書の要旨

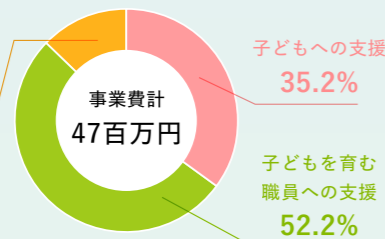
2023年4月1日から2024年 3月 31日まで
単位(百万円)

科目	当年度	増減
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
経常収益	109	△16
経常費用	121	△3
評価損益等計	△1,333	△541
当期経常増減額	△1,345	△554
2. 経常外増減の部		
経常外収益	1	△11
経常外費用	10	△5
当期経常外増減額	△8	△5
当期一般正味財産増減額	△1,354	△560
一般正味財産期首残高	6,528	△794
一般正味財産期末残高	5,174	△1,354
II 指定正味財産増減の部		
受取寄付金	4	3
当期指定正味財産増減額	3	3
指定正味財産期首残高	0	0
指定正味財産期末残高	4	3
III 正味財産期末残高	5,177	△1,350

事業費の内訳

※事業共通費と人件費、管理費は除く

広く一般に向けた
情報発信・共有
12.6%



法人概要

法人名称	公益財団法人 資生堂子ども財団	理事長	塩島 義浩	設立年月日	1972年4月8日
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座 7-5-5		URL	https://www.shiseido-zaidan.or.jp/	

役員・評議員

※役職ごとに五十音順、敬称略で記載しています
※2024年7月現在

役職	氏名	現職・旧職
理事長	塩島 義浩	株式会社資生堂 元執行役員
常務理事	塩見 朋子	公益財団法人資生堂子ども財団 事務局長
	福原 義久	株式会社福原コーポレーション 取締役副社長
理事	川崎 二三彦	社会福祉法人横浜博萌会子どもの虹情報研修センター センター長
	久保田 まり	東洋英和女学院大学人間科学部 教授
	潮谷 義子	社会福祉法人恩賜財団済生会 会長/熊本県 元知事/日本社会事業大学 元理事
	西田 篤	広島市こども療育センター 心療部長/広島市こども療育センター「愛育園」園長
	村木 厚子	全国社会福祉協議会 会長
	安川 実	社会福祉法人聖霊病院聖霊愛児園 元統括施設長
監事	安野 裕美	株式会社資生堂 取締役
	山本 春雅	山本春雅税理士事務所 所長・税理士/株式会社ルシーダ 代表取締役社長
評議員	石橋 康正	東京通信病院 名誉院長
	宇野 晶子	北陸電力株式会社 社外取締役/東急不動産ホールディングス株式会社 社外取締役
	大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
	大宅 映子	株式会社大宅映子事務所 代表取締役/財団法人大宅社一文庫 理事長
	佐藤 美樹	朝日生命保険相互会社 特別顧問/公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会長
	直川 紀夫	株式会社資生堂 執行役 エグゼクティブオフィサー 常務
	谷垣 岳人	弁護士
坂東 眞理子	学校法人昭和女子大学 総長	

財団の始まりと歩み

資生堂子ども財団は、株式会社資生堂の創業100周年記念事業として、社会への利益還元を目的に設立されました。資生堂は1921年に洋装の子ども服を展示した「子供服と鏡台陳列」展の開催や1922年に月刊誌『オヒサマ』の刊行など、古くから子どもにゆかりのある数々の活動を行ってきました。その子どもへの深い関心から生まれた財団は、設立以来、子どもたちの明るい未来を創造するために、児童福祉に特化した活動を展開しています。



月刊誌『オヒサマ』

- 1970
 - 1972年4月 財団法人 資生堂社会福祉事業財団 設立 (現 公益財団法人 資生堂子ども財団)
 - 1973年 資生堂児童福祉海外研修を開始 (現在に至る)
- 1980
 - 1988年 母親セミナーを開始
(1993年におかあさんセミナー、2001年に子育てセミナーに改称し、2010年まで継続
2011年からは全国の児童家庭支援センターなどが主催する子育てセミナーへの助成に変更し、現在に至る)
- 1990
 - 1994年 日本で「子どもの権利条約」が批准された年に、国際家族年(1994年)の啓発に取り組んだことと、設立以来の当財団の活動に対して、国連の国際家族年事務局より表彰を受ける
- 2000
 - 2005年 「社会への巣立ちフェスティバル」を開始 (現在に至る)
 - 2007年 設立35周年事業として「資生堂社会福祉事業財団奨学金」を開始
(2022年から「資生堂子ども財団奨学金」に改称し、現在に至る)
- 2010
 - 2010年 内閣府より公益財団法人として認定を受ける
社会的なスキルやコミュニケーションについて学ぶ自立支援講座を開始
(2013年から「スターターズセミナー」に改称し、現在に至る)
- 2020
 - 2013年 自立に役立つスマホ版情報サイト「そらまめガイド」を公開
 - 2022年 設立50周年を迎え、「資生堂子ども財団」に改称する



【設立50周年記念事業】志を同じくする仲間として、地域の子育てを支える児童家庭支援センターや資生堂と協働し、地域で暮らす親子にリフレクシブ体験を提供したり、奨学生に対して特別交流会を実施

詳しくはWebへ▶

協働いただいた法人のみなさま

※五十音順に掲載しています

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 株式会社AOKI | 株式会社ファイントゥデイ |
| SMBCコンシューマーファイナンス株式会社 | 株式会社三井住友銀行 |
| エバラ食品工業株式会社 | 株式会社リクルート |
| 株式会社資生堂 | |

協働の取り組みやご寄附を検討されている法人のみなさまへ

資生堂子ども財団は、多くの法人のみなさまと一緒に、子どもたちが輝く社会を実現したいと考えています。さまざまなアイデアやリソースをお持ちの方々と協働させていただくこと、ご寄附という形でお力添えいただくことは、私たちにとって「大人がつながれば、子どもの未来を支えられる」という想いを形にするための大切な一歩となります。ぜひ、お気軽にお問い合わせいただければ幸いです。

詳しくはWebへ▶

ご寄附のお願い

資生堂子ども財団の活動は、みなさまのご寄附に支えられています。
新たにご支援を検討されている方には、さまざまな「寄附メニュー」をご用意しております。



① 奨学生応援サポーター 社会的養護のもとで暮らす子どもたちの進学や自立を支えます

いただいたご寄附は、すべて資生堂子ども財団奨学金の活動に使わせていただきます。

【毎月のご寄附】

毎月決まった金額でご支援いただく方法です。

【都度のご寄附】

ご都合のいいタイミングでご寄附をいただく方法です。

② 事業活動全体へのご寄附

いただいたご寄附は、用途を指定せず、広く資生堂子ども財団の活動全体に使わせていただきます。

③ 遺贈でのご寄附

資生堂子ども財団は、三井住友信託銀行株式会社と提携し、遺贈寄附をご希望される方に、
遺言を利用した遺贈に関する相談窓口をご紹介します。まずは資生堂子ども財団にお問い合わせください。

資生堂子ども財団は、税額控除制度適用対象法人の証明を取得しているため、
税制上の優遇措置を受けることができます。

詳しくは Webへ▶

公益財団法人 資生堂子ども財団

〒104-0061 東京都中央区銀座7-5-5 <https://www.shiseido-zaidan.or.jp/>

財団公式ホームページ▶

財団公式 Facebook▶

2024年 7月

発行:公益財団法人 資生堂子ども財団

制作:エフクリエイション株式会社